

キリスト教式

キリスト教の葬儀は、故人を神の手に委ねる祈りと、神を称えることと、遺族への慰めと励ましを中心に行われます。

キリスト教では本来、通夜や告別式のような儀式はありませんでしたが、日本の風習を取り入れて行われています。

■前夜祭

プロテスタントは、通夜にあたる前夜祭をおこないます。このときに献花のかわりに焼香をすることもあります。

前夜祭後は、参列者に簡単な茶菓子か食事を出して、故人をしのぶことが多いようです。

■葬儀ミサ

近親者や故人と関係の深かった人や、信者でない一般会葬者でも、告別式だけでなく、葬儀の始めから参列するようにしましょう。聖歌の合唱がありますが知らなかったら歌



わなくても大丈夫です。

キリスト教では、故人に対して拝礼するようなことはなく、仏式の焼香や神式の串玉奉奠にあたるものはありませんが、参列者が信者だけとは限らないために、故人との別れとして、日本的な風習で献花を行います。

■供花

キリスト教では祭壇に飾るのは生花の花輪だけです。花輪を贈るときには、名前を書いたカードをつけ、黒リボンでむすびます。

花輪のかわりに「御ミサ料」「御花料」として、香奠を贈ることも多いようです。

■献花

① 係から渡された花を、花が右にくるよう

に受取り、胸の高さに持って祭壇前に進み一礼する。

② 祭壇前で図のように花の向きを変えて、花を両手に添えた状態で献花台に供える。

③ そのまま少し下がり、手を組んで黙祷し、牧師、遺族に一礼して自席に戻る。

